

令和2年度 第2回岡山県立図書館協議会

日 時：令和3年2月19日（金）14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 サークル活動室

出席者 ○委員：秋山委員、小野委員、貝原委員、工藤委員、小林委員、永田委員、平松委員、道広委員、宮野委員、湯澤委員

○県立図書館：中本館長、奥山副館長（総務・メディア課長）、林総括参事（サービス第一課長）、笠原サービス第二課長、松本資料情報課長、鳥越図書館振興課長、神田総括副参事（企画・メディア班長）

欠席者 なし

1 開会

2 開会挨拶

県立図書館 中本館長 挨拶

3 協議・報告

(1) 令和2年度事業概要について

資料1

資料に基づき、事務局から説明
意見なし

(2) 令和3年度当初予算案の概要について

資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

資料等整備費が大幅に減っているが、どこの自治体も税収が減っているので大変であることは分からないではない。コロナも簡単にはおさまりそうにない。このような時こそ魅力的な本を買って欲しい。国から図書の整備について補助などはないのか。

【事務局】

本年度予算については9月補正で国の臨時交付金を活用して2500万円の増額をいただいている。来年度については特に聞いていない。

【委員】

たちまち困るということは生じないのか？

【事務局】

正直厳しい状況である。今現在の予算案は約25%カットである。そうなった時を想定して資料収集のあり方を今まさに館内で検討中である。現在の方向性等を少し申し上げると、約25%カットということで対前年度比で4分の3しか本が買えないことになる。では、すべての本を4分の3にするのかというと簡単にそうはいかない。まず県立の役割として、市町村支援用の資料は極力カットすることなく整備に努める必要がある。

また、これまでの段階的な予算削減に伴い、雑誌類や新聞はかなり大胆にカットしてきた。それをさらに機械的にカットするわけにはいかない部分がある。その結果、館内用の一般図書にしわ寄せがいくことになり、対前年度比で約3分の2程度しか買えない事態が想定される。その一般図書の中でも子ども読書の推進は今まで県立図書館が特に力を入れてきた項目であり、来年度からの第4次中期サービス目標にも重点プログラムに位置づけ引き続き重点的に取り組んでいく予定である。また、県が策定し昨年度から実施期間となっている第4次岡山県こども読書活動推進計画の中にも新刊児童図書の全点購入を継続することとなっている。予算上大変厳しい状況であるが、当館の重要な特徴である新刊児童図書の全点購入については守っていかなければならないと考えている。それら必要な財源をどう調整し捻出していくか今まさに検討しているところである。

【委員】

それぞれの部署が予算を減らしてもらっては困ると言って予算編成は大変だと思うが、コロナ禍で静かな生活には本が必要である。

(3) 第4次中期サービス目標（案）について

資料3

資料に基づき、事務局説明
意見なし

(4) 岡山県内市町村立図書館の動向について

資料4

資料に基づき、事務局説明

【委員】

市町村立図書館の経年変化の中で、公立図書館の職員が学校図書館と兼務をしているという説明だった。司書に助けていただくということは学校図書館にとってはなくてはならないことであるので、専任を置いていただくように県の司書部会などが県に申し入れしていると聞いている。公立図書館と学校図書館で目標が同じ部分もあり、違う部分もあると思う。学校の教育活動に寄与する為には兼務では難しいと思う。担当している人は非常に苦勞されていることと思う。具体的にどのような実態があるのか。

【事務局】

当館の事業の一つで県内の図書館を巡回して課題や実情を伺っているが、その中で今年度から会計年度任用職員制度が導入されたことで、人員が削減されていたり、足りないところは公共図書館の職員が学校図書館と兼務するという自治体が増えてきている。例えば、公共図書館に週2日いて、残りの3日は学校に行っている。それも1校でなく何校か掛け持ちしているという実態がある。学校に行っても溜まった仕事をこなすだけですぐ一日が終わる。学校図書館での充実した活動とはかけ離れた状況が生まれてきていると聞いている。

【委員】

学校によっては高校でも事務の人が午後図書館に来るところもある。いろいろところで人員の工夫はしていただいているのだろうが、委員会指導もできない。司書

がいる中での委員会活動はすごく充実したものになる。生徒たちのためにも少し何とかしていただければと思う。我々ももっと知っていかなければならないと改めて思った。これからも情報をいただければと思う。

【委員】

前の説明のところでは会計年度任用職員制度の導入とあったが、いつからか。また、どういうものか。

【事務局】

地方自治法及び地方公務員法が改正され、全国的に今年度から導入された制度である。従前の制度上の課題として、採用方法が明確化されていないなど任用上の課題と、期末手当の支給ができない処遇上の課題等があり、新しい制度によって適正な募集を行った上で採用選考により任用し、期末手当の支給が可能となっている。

【委員】

会計年度任用職員では専門性が発揮しにくい、見通しをもった仕事が出来ないのではないかと思う。

【委員】

処遇の改善にはなるのか？

【事務局】

国の交付税措置もされており、人も減らさずに処遇を改善し、というのが本来のあり方である。県立図書館では人も削減されていないし、処遇も改善している。

【委員】

地元の小学校と中学校では図書館司書がパート的に入っている。学校は人数的にはパートが入ってしっかり活動ができているようだが、図書館の方が手薄になっているのかなと思う。

【委員】

それぞれの自治体の財政事情によって違うのだろう。

【委員】

学校現場にいてくださる人は、数年にわたって子どもたちと信頼関係が作られていく必要があるが、処遇改善や研修に関してどの程度保障されているのか。職員個人個人では声を上げづらい状況ではないかと思う。また、兼務の場合、いい意味では情報共有がしやすいところがあるだろう。公共図書館の資料を学校で使うという意味でのパイプにはなってもらえる可能性があると思う。

しかし、司書の方には学校内にいつもいていただき、時に子どもたちの心の居場所となっていたきたい。実際、図書館でホッとできる子どもたちもたくさんいる。兼務が進む場合、そのような心の居場所が学校内から失われてしまうといった懸念もある。

こうした現状を知ってもらうことが必要であり、学校現場からの発信もしなければならない。

【事務局】

県立高校の場合は、全部の学校図書館に専任の職員を配置していて、半分くらいが正規の職員、残り半分が非正規の職員。正規の職員になると、人事異動で県立図書館と異動があるのでお互いのことが分かるということもありメリットが大きい。正規職員の採

用が必要であったり、経費の問題があるものの、県の場合は少しずつではあるが充実している。小中学校の場合は市町村が責任を持つことになっているので、県としては情報提供をすとか研修を実施するなどの支援を行っており、継続していきたい。

(5) フリートーク

資料5

資料に基づき、事務局説明

【委員】

利用者の高齢化が進んでいくという説明があったが、若者の我々世代はみんな分からないことがあったら、本で探すのではなく携帯やネットで調べて解決してしまうことに問題があるのではないかと思った。自分も教育について調べるが多かったので最初はインターネットを使って調べていたが、結局行き着くところは簡潔にまとめられていて色々な情報が入っている本だった。本を元に教育的な事を調べて発表をしたら評価が高いことが経験としてあった。このところをどうにか同じ世代に気づいてもらえるような何かがあればいいなと思った。

【委員】

これといった名案があるわけではないが、自分を振り返ってみると本年度来館して一冊も借りていない。学校にいと取り寄せてもらえるので、それは利用している。高校には副館長が積極的に働きかけてもらって県立図書館に親しんでもらおうとバナーを作ってもらった。生徒がホームページを見たときに開けるような、ということで、学校に依頼して対応をお願いしている。今年度はコロナの関係で全体の高校が集まって会議や研修が出来なかったので徹底できていない。学校によってはいろいろなところからバナーを張ってほしいという話がきていて、全部張っていると大変なことになるのでトップページに張れないという学校もある。その学校の中には図書館のホームページがあったのでそちらに張ってくれた。バナーを作って下さったので生徒が図書館を使いやすくなるかと思う。高校生も二極化していて、本を読む子は本当に読むが、全く1年間宿題以外は読まないという子もいる。読まない子に本を読ませようと思えば仕掛けが必要。学校現場で生徒たちに本を必要とするような教育活動を仕掛けていけないといけない。総合的な探求の時間もこれから本格的になりそうなので、そういうものを活用しながら図書館が役に立つということを手を働かしていかないといけない。倉敷市は大きな図書館があるので市の図書館で間に合ってしまうところがある。市町村図書館で満足できない人をどうするか、どうニーズを掘り起こすかが課題だと思う。

【委員】

これまでも色々な努力をされて現状の数字をキープされていると思うので今以上思いつかない。そもそも累計登録者数が県民全体の約15%ということだが、現状使っている人が満足しているのであればそれほど数字にこだわる必要はないのではないかと個人的には思う。ただ、その中でも数字を上げていくということであれば、15%という数字はおそらくここへ足を運んで利用できる人は、ほぼ登録しているのではないかと。遠方の人にはなかなか来られない。各自治体の図書館で借りやすい返しやすい、今でもやっておられると思うがそこを工夫することかと思う。現場でどういう状況で貸し借りをして

いるか分からないので具体的なことは申し上げられないが、遠方対策を考えてみれば何かアイデアが出るのではないか。

【委員】

満足度も重要な指標だと思う。先ほど高齢の方も多いと聞いたが、おはなし会だけを見ると参加人数が毎週土日で行われていて延べ2千数百人は来館していると思うので、その辺りのニーズは非常に大きいのではないかと思うし、子育て支援の受け皿にもなっていると思われる。あるものをさらに充実していくといった視点も大切にして欲しい。町中で考えると若い家庭の流入もある。赤ちゃんから図書館へというような道筋で取り組まれているのをさらに広めていくとか、好事例としてツイッターとかで伝えていくと、本当に居場所がなくて困っているお母さん方が自分たち親子も行っていいんだということになるかと思う。とあるお母さんに聞いたところ、自分は近くではなく遠くの図書館に行くという。何故かというと子どもを連れて行ったときの視線が冷たいところと暖かいところがあり、暖かいところに連れて行くという話があった。お父さんお母さんたちは敏感に感じていて、子育てに対して暖かなまなざしを職員一人一人が向けてくれると思ってもらえるとまた新しい世代が増えるのではないかと思う。冒頭紹介のあった年間行事がコロナ禍でもされたということで、テーマを見ても面白い。科学道など思わず見たくなるものがある。これは企画展なので人数とか把握できないかもしれないが、どういったテーマの時に反応がいいのか、調査まではいかななくても、何らかの形でフィードバックしてまた企画するという循環があればよい。実際にこの場に来て喜ばれる企画など、例えば福袋なども色々なメディアで取り上げられていて、この時期にここに来ればこれがあるという目玉があればよい。新しい企画をどんどん出していただいて、その上でアセスメントしながら、利用者に、本当に求められている企画を展開していくというのはどうか。

【委員】

自分の子どもたちを見て感じるのは、若い人はネット依存で本には興味はないのだろうという思い込みが世の中にはあるが、そうではないような気がしている。読みたいし、コロナ禍でも新しい本を開拓している。ネット世界にうんざりしていて、本を読んでいる人は格好いいという意識もあるようだ。おすすめ本がグーグルなどでどんどん出てくるので、自分で探して選ぶという習慣がない。おすすめ無しでは本が選べない、また選んでみても読み切れなくて挫折体験がどんどんたまって自分は本が読めないという感覚を持っている。一対一であなたはこういう性格ならこんなおすすめの本があるとアシストしてもらえれば読む気はあると思う。ツイッターのフォロワー数を3000名にするということで、来る前にツイッターとフェイスブックを見てきた。内容はイベントの告知が主だった。子どもたちがSNSを見る基準は、誰かがどこかに行って、これが良かったという口コミ、成功体験を見て自分も行こうという気になっている。ただイベントがあるという告知に対して行こうという反応ではなさそうだ。参加して良かったというたった10文字でも良いので、どんどん発信していくと敏感に反応するので、フィードバックが一番必要だと思う。インスタグラムが公式ではないが、ハッシュタグで県立図書館を調べるとたくさん出てくる。その内容は図書館の単なる本や建物であったり、自分が借りた本であったりである。ハッシュタグ〇〇で投稿してもらえると影響

があるのではないか。また、自分の子どもが小さかった頃を思うと、子どもを図書館に連れてきている自分に対して、自分がきちんとしているという自己肯定感が味わえる場所だった。子どものためになっているし、自分はちゃんとしていると思える自己肯定感を各世代に感じてもらえるイベントなど何かがあればいいと思う。

【委員】

テーマはどう増やすか、ということであるが、増やすことが前提になっているようだ。予算が減っているという中で増やすというのはなかなかしんどいのではないかなと思う。例えば県民全体の15%にとどまっているという表現は全国的に見て低いということか。

【事務局】

全国的に見ると高い方だ。47都道府県の中では7番目くらいである。一番高くて鳥取県の22%。ただ、1%上げるのも大変だ。

【委員】

個人的には現状維持で十分だと思うが。これを上げるとなると相当何かしないといけないと思う。説明で高齢者に偏っているということだが、これが10年20年後には激減して利用者もかなり少なくなる。若年層、特に幼児とか児童とかにターゲットを絞って、児童本が充実していることもあるので、家族連れで来られるイベントなどを積極的にやっていくのはどうか。毎回来る度に思うが、北側の駐車場に立派なスペースがある。屋外のイベントで使えたらいいのではないかな。こんなに全国的に見ても恵まれた場所はないのではないかなと思う。特に文化や教育を発信する場として県立図書館は非常に良い場所にあると思う。屋外で何かできるものがあるかということ、今グランピングがはやっている。そのようなものを夜泊まりでとなると難しいと思うが、疑似体験できるものとか、グランピングの中で怖いお話するとか親子で興味があって楽しめるようなものなどをやってみてはどうか。

【委員】

若い中高生の利用が少ないということで考えてみたが、図書館の行事にボードゲームやTRPG（テーブルトークロールプレイングゲーム）を取り入れてみてはどうか。この1月に県図協セミナーで「図書館とゲーム」が開催予定だったと思う。残念ながらコロナで中止になったが、ぜひ話を伺いたい。自分で図書館とゲームがどういうものかと調べてみた。最近では図書館にボードゲームを置くということが非常に増えているということだ。図書館は本を読むところであり、読書をする環境を整備することが重要であることは言うまでも無いが、図書館は色々な人が集う拠点となる場所なので、図書館にゲームを置くという取組が出てきている。例えば囲碁や将棋、オセロやカルタといった昔ながらのゲームもあるが、最近では海外のファンタジー系のテーブルゲームがはやっている。将棋や囲碁などルールを知らないと出来ないものではなく、若い中高生が興味を持つようなボードゲームを取り入れてはどうかという話だった。図書館で声があると大変なのではないかなと思うが、例えば図書館が閉館している日にゲーム大会をするとか、閉館後にするとか別室でするとか色々なQ&Aがあったようだ。ゲームの関連本を紹介するというのが大人気だという。TRPG（テーブルトークロールプレイングゲーム）は、一定のルールブックに従って、数人のプレイヤーが物語を作り上げていくゲ

ームだそうである。参加者が司会進行役とその他のプレイヤーに分かれて空想上や現実の世界を舞台に各々の参加者が課題の解決を目指すというもの。これはオンラインでも多いが机の上でもできる。また、大学図書館や高校の図書館でも多いと聞く。図書館の本や地域の伝説や郷土資料を取り入れたシナリオを作って、そのシナリオを元に開催するらしい。こういった新しいボードゲームや電子ゲームなどは海外の図書館では普通に図書館の資料として登録されているという。視聴覚資料のような扱いをしているらしい。本と同じように貸し出しをしている。日図協が「図書館とゲーム」という本を出しておられて、高倉暁大さんや日向良和さんなどが書かれている。その方をぜひ呼んでいただいて、図書館でゲームということについて考えてみてはどうか。

【委員】

それぞれの市に立派な図書館があるし、学校現場でも図書室の中に多くの材料がある。先日、視察で倉敷天城高校に行って図書館を見せてもらったが、雑誌から何から相当の資料があった。県立図書館は少し差別化する必要があるのではないかと。例えば倉敷の人はわざわざ県立図書館に来ないと感じるのだから、県立図書館の魅力をしっかり発信していくことが大切なのではないか。特にイベントもしかりだが相当な行事をやっている、すばらしいと思う。ただ、情報の発信がSNSを使ってどこまで伝わっているのか疑問符がつく。SNSを使って情報発信をすることを否定するものではないし、これから増えていくと思うが、一方でその先にどう伝えていくか。例えば子どものイベントがあれば教育委員会と連携して学校現場に情報を流してもらうなどの取組も必要になってくるのではないかと。倉敷の小中学生にも岡山県には県立図書館があると認識されると思う。もう一つ、高齢化になってくるということで、前回、紙をさわって本を読んで、という話が出たが、一方で電子書籍が増えてきているということで、これをどう区別するかがある。本を触って感じていただくということがベストということで、電子書籍もまだまだボリュームがないということや図書館の予算が減るということもあるが、今年4月からギガスクール構想ということで小学生に1台のパソコンということになるので、より利用はしやすくなるのではないかと。インターネットで調べるのではなくて、電子書籍で調べるような流れ、感覚を育ててもらえれば少しでも利用者が増えるのではないかと。15%についてはあるが、前回話題になった全国1位になったところが複合施設という。今回も15%を20%に上げることがどうなのかと思う。来館者数だけを見ると、今の時代では変わって来ているのではないかと。むしろ、貸出冊数が重要だ。来ていただく方に県立図書館の魅力を感じていただくような取組を進めていく、そしてさらにそれを広く周知していくのがよいのではないかと。

【委員】

県北では県立図書館に来館して本を借りるとするのは難しい。県北にいて感じるのは、子どもの施設などが借りる本の半分くらいは県立図書館の本である。司書がテーマで集める時に、自分のところにはないものは県立図書館で借りてくれる。市町村の図書館でも借りて届けてもらえるので、県立図書館があるのはありがたいことだと思う。日常的に使っているお母さんや町民の方は、どこからか取り寄せてくれたな、くらいの意識だと思う。県立図書館の児童書全点購入はすごく助かっていると感じているので大切に

もりたい。また、SNSで調べることについて、最近よく個人的に新刊とか古本とかを自分たちで紹介している人がいる。結構そのようなものをみんな見ている。山陽新聞の子ども新聞の中におすすめの本がでてくるが、自分たちの施設でも紹介している。県立図書館で紹介している本もSNSで出ていたりするとチェックしやすいのではないかな。また、今回のシステム更新で本の表紙が表示になるが、さらに本が探しやすくなると思う。周りには自分の地域の図書館のカードを持っている人は多いが、県立図書館のカードを持ってる人はあまりいない。そのようなカードを持っていない人も恩恵を受けているのに、知られていないのが残念。

【委員】

初めての試みで、今回あまり時間が無かった。これは重要な話なので、次回まで考えて頂きたい。自分はインターネットを知らない世代である。人生の大半はなかった。ネットが出来てからというのはずいぶん世界が変わった。今では当たり前になっている。では、自分の時代に本を読まなかったということではなく、こんなにおもしろいものではなく授業をサボって読んでいた。活字文化が自分の知識を豊かにしてくれるということをしみじみ感じる。活字文化がこれからどうなるかについて楽観視はしていない。時代にあった図書館のあり方を考えなければならない。例えばツタヤのような図書館は今までの図書館と全然違う。図書館のあり方が相変わらず貸本屋のようなことでよいのかとずっと考えている。県立図書館への来館者数はどうでもよい。それよりも貸出冊数が増えれば良いのではないかな。そうすれば予算も増える。県立図書館の良いところを考えて欲しい。旧総合文化センターの時代はよくこんな古い本を置いているな、という感じだった。今は新しい本がどんどん購入できて、専門書も多い。自分は倉敷市民だが、毎日のように倉敷の中央図書館を利用する。この頃は本も充実してきたが、専門書になるとやはりない本もある。もう一つ大きいのがやはり児童図書。こんなに充実しているところはない。これを売りの一つにしてきた。これを若い人や高齢者に広めて、子どもたちに本を読んであげて欲しい。県立図書館の強みをアピールしてほしい。あと、マイナンバーカードで図書館カードが兼ねられるのか？

【事務局】

マイナンバーカードに図書館の利用者番号を紐付けするものである。図書館の利用者登録は別途必要である。

【委員】

カードの削減にはならないのか。市町村別に図書館の利用者登録をしている人の市場調査をしてみてはどうか。その結果、登録数の少ないエリアへのテコ入れをすることも必要だ。先ほどの話で、地域の図書館で借りるのは県立の実績になるのか？

【委員】

借りる方としては地域の図書館から借りるが「これは県立図書館の本なので、いつまでに返して下さい」と言われる。

【委員】

貸出冊数のどちらにカウントされているのか。

【事務局】

それは図書館貸出なので、個人貸出とは別にカウントされている。図書館へ貸し出し

た冊数でカウントされている。

【委員】

県立の実績には入るのか？

【事務局】

県立図書館の個人貸出の実績には入っていない。県内全体の6.6という数字には市町村の図書館としてカウントされている。

【委員】

県立図書館の実績には入らないということか。だが、県民全体に供するならよい。県立図書館の強みをしっかりアピールしてほしい。今後の図書館のあり方が問われている。これからはデジタル本が増えてくると思う。無料の本もある。次回までにこの件を含めて考えただけであればありがたい。

【事務局】

県立図書館も難しい議論があるが、我々も図書館のあり方もしっかり考えていかなければならない。ターゲットは若い人や高齢者、子育て世代などあるが、具体的にターゲットを絞りながらという話をいただいた。県立としての強み、市町村との差別化を我々も考えていきながらどううまく発信するか。今回登録者について提案したのは、予算が減ったとはいえ、数億円を毎年税金からいただいている。岡山にいる方も津山にいる方も同じ恩恵を受けてもらいたい。これが素朴な思いである。どういったサービスができるかをご意見を踏まえて我々も考えていきたい。